



～地域にあった公園の使い方について

検討を始めました～



第1回プロジェクトチーム会議を開催

詳しくは次のページへ！



地域にあった公園の使い方を考えています

■公園の抱える課題

公園は、都市の魅力、活力、憩いを生み出す貴重なオープンスペースです。しかし、時代の流れと共に、禁止ルールの増加、利用者の減少、施設の老朽化等により、本来持っている公園のポテンシャルが十分に活かしていない公園が増えてきています。

また、公園の管理に協力いただいている愛護協会の皆さまも高齢化が進んでおり、現在の状態で公園を保ち続けることが難しくなってきています。



▲ 北鍵屋公園（通称、消防公園）

■京都市は、何がしたいの？



京都市では、公園の魅力をもっと引き出すために、行政主体ではなく、地域が主体となって、公園の使い方を決めることができる新しい公園運営の仕組みを作ろうとしています。

この新しい仕組みの目指すところは、公園が地域のニーズに合った魅力的な場所となっていくこと。そして、地域で公園の使い方を考えていくなかで、いろいろな人がつながり、地域コミュニティの活性化や地域の価値向上につながる。そのような未来像を描いています。

■なぜ、(株)セブンイレブンと共同研究しているの？



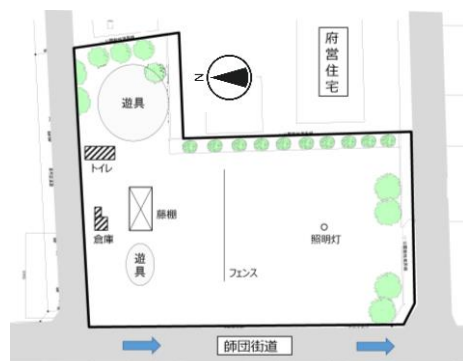
新しい仕組みを作るには、行政だけではなく、既存の枠組みにとらわれない民間の柔軟なアイデアや大胆な発想が必要と考え、京都市と共同研究してくれる企業や団体等を公募しました。そこに、(株)セブン-イレブン・ジャパンから応募があったため、提案内容を審査し、共同研究を行うこととしました。

■プロジェクトチームを立ち上げました！



これまで、自治連合会をはじめとした藤森学区地域力アップ活動事業の方々の協力を得ながら、ワークショップや意見募集のためのイベントを実施してきました。

これから、更に議論を深めていくために、藤森学区自治連合会や公園愛護協会、これまで開催したワークショップや現地イベントの参加者などから北鍵屋公園プロジェクトチームを立ち上げ、セブンイレブン、京都市と共に、北鍵屋公園の使い方等を考えていきます。



▲ 公園の現況図



これまでの取り組み

■令和4年8月～

地域力アップ全体会議等で地域が主体となった公園の活用方法について話し合いを始めました。話し合いが進む中で、(株)セブンイレブンにも参加していただき、提案内容を発表していただきました。



■令和5年2月 ワークショップ

近隣にお住いの方の意見を聞くために6町内会を対象にWSを開催し、公園の理想の姿について話し合いました。

■令和5年3月 現地イベント

より広い範囲で地域の方の意見を募集するため、現地イベントを実施しました。公園の未来像と(株)セブンイレブンの提案について、意見を聞きました。



北鍵屋公園での現地イベントの様子

■<参考> (株)セブンイレブンからの提案

公園での活動を継続的に行うための拠点となる施設や活動資金の提供

①施設の提供

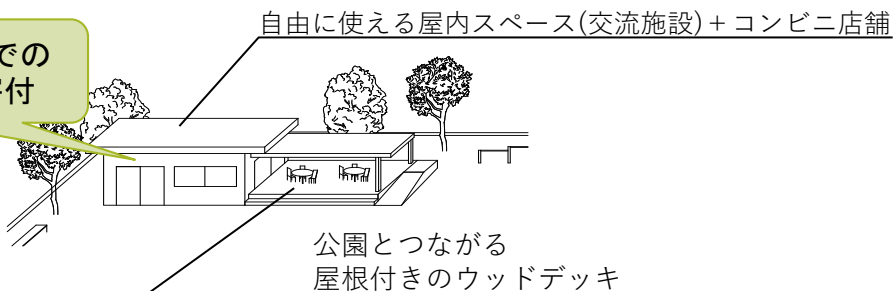
地域が自由に使える屋内スペース、屋根付きウッドデッキなどの店舗と併設した施設を提供

②活動資金の提供

店舗の売上の一部を公園での活動資金として地域に寄付

例えば、遊具を購入したり、お祭りや防災イベントを実施するために使ったり、愛護協会の実施している草刈などの一部を外注するなどの使い方を想定

売上の一部を公園での活動資金として寄付



※あくまでも提案段階であり、実施が決まっているわけではありません。



第1回プロジェクトチーム会議での意見 (4月24日開催)

現在の公園について

- ・公園愛護協力会のボランティアでの清掃活動により、美しい公園が保たれている。
- ・ボール遊びに来る子供が多い。

- ・遊具のスペースが死角になっている。不審者情報もあるので防犯面が心配
- ・蚊がたくさん発生している。
- ・トイレが外から丸見えになっていて利用しづらい。
- ・ごみのポイ捨てが多い。
- ・公園内の敷石や切り株が残っているのは危険
- ・師団街道はもちろん、公園南側の道路は交通量が多い。

こんな場所にした

- ・子ども達が安心して遊べる公園にしたい。
- ・今出来ているボール遊びなどは、これからも出来るようにしたい。
- ・親同士が交流できる、地域がつながる場所になれば嬉しい。
- ・ミニ植物園、昆虫を育てる場所など子供が楽しめる場所を作りたい。
- ・地域や公園の歴史が学べるパネルを設置してはどうか。
- ・時計が欲しい。

セブンイレブンの提案

■活動資金の使い方

- ・地域の方たちを公園の管理人として配置しては。子どもを見守ったり、危険な遊びを注意したり、ケガしたときの緊急対応ができる。公園のゴミ拾いなどもできる。ボランティアではなく、少額でも報酬が出る仕組みが継続した活動になるのでは。

■施設の提供案について

- ・地域が活用できる施設の提供は嬉しい。
- ・公園に建物ができると遊ぶスペースが無くなるのでは。
- ・建物により死角が増えると困る。
- ・交流施設やコンビニが出来る場合、公園にマッチした景観や機能を持った施設であるべき。

■その他

- ・常に大人の目があるのは安心。
- ・買い物や公共料金の支払いが便利になる。
- ・店舗ができると、ごみのポイ捨てが増えるのでは。
- ・公園に商業施設は必要ない。
- ・公園にコンビニができると、そこでお菓子を買って食べられる子、食べられない子の差が出ないか心配。

こういった意見から、プロジェクトチームとして「地域にあった公園の使い方」をまとめていきます。

